

2016（平成28）年度 京都大学 入試問題 理系 第2問 解答例

問一

中世ヨーロッパ社会では、人々は雑然と空間を伝わる音声すべてを子細に聞き分ける、現代人よりはるかに優れた能力をもち、すべての音源が無意味ではなかったということ。

- * リード文ですでに注意喚起されているように、主題としての「中世のヨーロッパ社会で」のこととして、限定的に解答すること。
- * 「～ありえなかった」の置換説明なので、「すべて……であった」といった全称表現の解答化を図る。

問二

中世写本は、文字を使用して情報を正確に蓄蔵し、時空を超えて伝達する通信手段であるとともに、それ自体ひとつの芸術品としての美的価値をも兼備していたということ。

- * 「細密挿画」「イニシャル文字の装飾」は具体例にすぎないので、解答に用いない。
- * 「分離できぬ一体となっていた」ことの意味を適切に説明すること。

問三

中世ヨーロッパでは、絵は文字と同様、情報を正確に蓄蔵し、時空を超えて伝達する通信用の手段であった。ほとんどの場合、画家は、絵そのものが対象を描写して鑑賞されるのではなく、明瞭な伝達内容を秘め、その意味が解読されるためのものとして、絵を描こうとしていたと考えられるから。

- * 否定構文タイプの傍線部であるから、その理由説明としても、否定構文の解答形式を採用すること。
- * 「(集中されていたのは) 集中していたからである」といった、トートロジータイプの解答ミスをしないように。置換ではなく、理由説明の述部表現をとる。